

経営比較分析表（令和5年度決算）

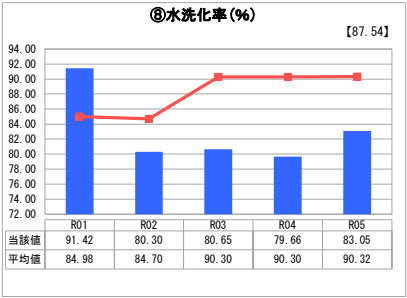
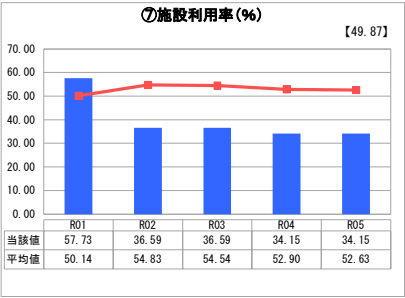
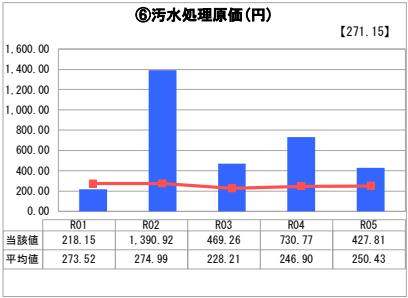
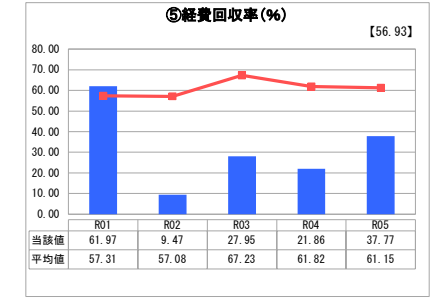
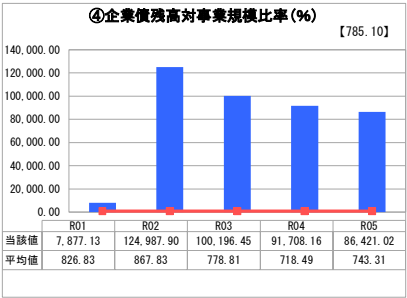
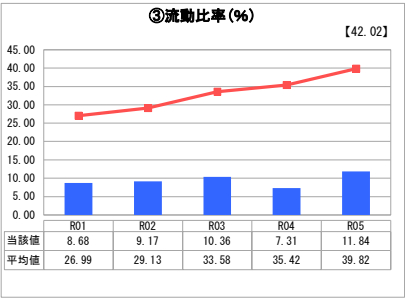
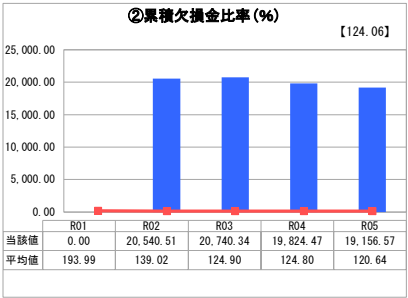
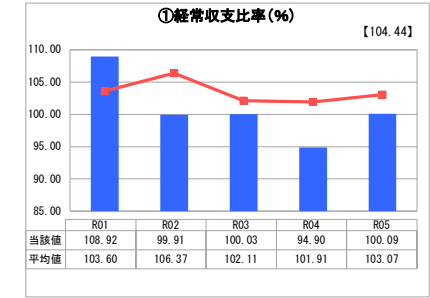
石川県 中能登町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	62.34	0.35	88.31	3,300

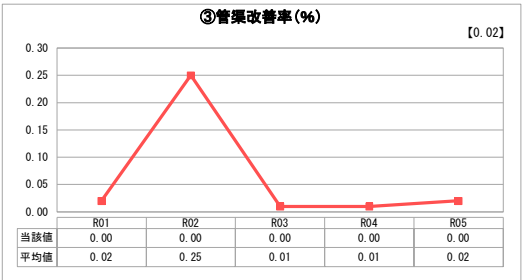
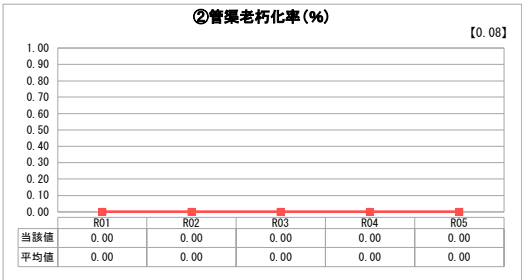
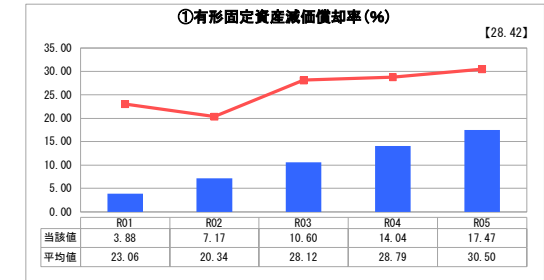
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,821	89.45	188.05
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
59	0.14	421.43

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
使用料決定により使用料収入は安定して推移している。しかしながら、本来使用料で賄わないといけない基準外繰入金も含まれていることから、引き続き経営改善に努めていかなければならない。
- ②累積欠損金比率
当該指標は施設の統廃合によるもので、今後も使用料収入の確保に努め、維持管理費の削減に努めることで経営改善を図る。
- ③流動比率
流動負債の大半を占める企業債の償還金に対し、不足する財源を一般会計繰入金や下水道事業資本費平準化債等で賄っている状況である。
- ④企業債残高対事業規模比率
企業債償還はピークは済んだものの依然として類似団体と比較すると、高水準となっている。今後は減少傾向となる見込である。
- ⑤経費回収率
施設の統廃合による事業縮小が大きく影響しているので、今後も汚水処理費の削減に努めることにより経費回収率の向上を図る。
- ⑥汚水処理原価
今後とも人口減少による有収水量の減少が見込まれることから、水洗化率の向上と維持管理費の削減に努める必要がある。
- ⑦施設利用率
今後の汚水処理人口の減少を踏まえ、適切な施設規模となるよう運営管理に努める。

2. 老朽化の状況について

現状では耐用年数に近いものはない状況である。

全体総括

これまでの整備事業に伴う莫大な企業債残高を抱えていることで、償還金が支出の大部分を占め、経営を圧迫している状況となっている。また、施設の統廃合による大幅な事業縮小が大きく影響している。今後も確実な料金収入の確保や包括的民間委託による維持管理費の縮減に努め、経営改善を図ることとしている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。